

総務委員会 活動報告

(要旨)



調査テーマ

「選ばれたまちについて」自治体におけるマーケティング戦略」

少子高齢化や人口減少が進み、自治体間の競争も厳しくなる中で、これからの自治体には、市民の声や地域の実情を的確に把握し、必要な施策を効果的に届ける力が求められています。半田市においても、転出超過や世帯構成の変化などの課題があり、限られた財源の中で施策の効果を高める視点が重要です。当委員会では、勉強会や先進自治体の視察を通じて、分析やヒアリングなどにより半田市の強みや課題を把握することの重要性を学びました。また、「誰に、何を、どのように届けるのか」を明確にし、対象を絞った施策展開や、マーケティング人材の育成が必要であることを確認しました。

議案の審議結果

委員等の紹介

常任委員会の活動報告

特別委員会の活動報告

会派などの紹介

市への提言

「どの課題に対し、誰を対象に、どの施策を、なぜ優先して実施するのか」という政策判断の根拠をより重視し、政策を立案し、実行するために、マーケティング戦略を作成すること。

「マーケティングの視点を観光・広報に限定せず、福祉・子育て・教育・防災・産業振興など全庁的に展開するため、専門部署の設置や専任職員の継続配置を行うとともに、外部専門人材の伴走支援も活用し、分析力・企画力・発信力を備えた人材の育成を計画的に進めること。」
「単にペルソナ（施策の対象となる人物像を設定するだけではなく、ペルソナに対して、どんな感情変化や行動を起こしてほしいかを明確にした態度変容ロジックモデルを作成すること。」



建設産業委員会 活動報告

(要旨)



調査テーマ

「公共交通の利便性の更なる向上について」

近年、我が国では諸外国に例をみないスピードで高齢化が進んでおり、半田市においても、65歳以上の高齢者人口は、この10年間で約2千4百人増加しています。高齢者の運転免許証の自主返納が進む中、移動手段の確保が困難な交通空白地域の市民にとって、公共交通の整備は日常生活を営む上で喫緊の課題となつていきます。さらに、公共交通は、その結節点に人が集まるため、交流や賑わいを創出する重要な役割も担っています。そのため、JR 半田駅と名鉄知多半田駅がある中心市街地において公共交通の充実が欠かせません。

半田市は、これまで地区のバス会と協議を重ね、コミュニティバスやおでかけタクシーの導入で交通空白地域の解消を図ってきましたが、未だ課題の解消には至っていません。このような状況から、当委員会では、今後の公共交通の利便性向上と持続可能な運行体制の構築の両立について、先進地の取組みを調査研究し、提言を取りまとめました。

市への提言（抜粋）

「時間帯ごとの交通需要の違いなど、利用者のニーズを的確に把握し、需要と供給が一致していない移動サービスを削減するとともに、適宜最適な移動サービスを提供してください。」

「マイナンバーカードと連携した交通系ICカードの活用などにより、決済時の割引やおでかけタクシーの乗車予約などが簡単にできる仕組みを検討してください。」

「公共交通の新技术や新制度といった新たな仕組みを調査研究してください。」

「持続可能な公共交通網を維持するため、利用者に相応の料金負担を求めてください。」

「交通事業者が抱える運転手不足の課題に対して、それぞれの役割を意識しながら、事業者と協働して課題の解消に努めてください。」

